



写真1〈旧町名標示柱〉



地図1〈旧町名標示柱設置場所〉

1 旧町名と歴史的建造物を守る

歴史と地理を語る地名

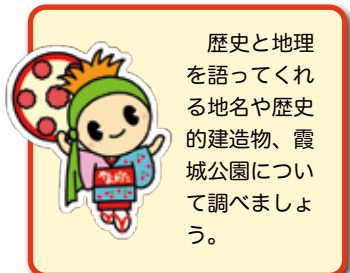
私たち一人ひとりに名前があるように、私たちが住む土地にも地名や町名があります。それらの名称はその土地の成り立ちや願いが込められ、身近な歴史や地理、文化を物語っています。

地名・町名には、古来からの字名や城下町時代の町名、1889（明治22）年の市制施行時の町名、住居表示法や新しい住宅地の造成による新しい町名などがあります。

その中には、そのまま伝承されているものと時代の進展に伴い変化している町名があります。特に、昭和38～42年には新しい住居表示法の実施によって、昔からの市街地での多くの町名が消えてしまいました。

旧町名標示柱の設置

新しい住居表示によって住居の番地は分かりやすくなり、郵便や宅配便の配達は便利になったものの、旧町名が消えたことを惜しん



歴史と地理を語ってくれる地名や歴史的建造物、霞城公園について調べましょう。

旧町名の由来

1 寺町

専称寺の周辺に塔領13ヶ寺を有し、これらの寺領を司る代官・名主などが住んだ寺内町

2 地蔵町

地藏院の門前町

3 柳町

鳥居氏の馬見ヶ崎川改修以前に堤防があったところ

4 長源寺町

鳥居氏の菩提寺である長源寺の門前町

5 片町

小白川から街道沿いに、片側にだけ人家があったところ

6 弓町

弓の製造や弓衆が住んでいたところ

7 袋町

明治初期まで行き止まり（袋小路）になっていたところ

8 新百姓町

鳥居氏の町づくりで城北の百姓が移り住んだところ

9 材木町

材木業者が居住していた職人町。木町（きまち）ともいわれた

10 鞘町

刀剣の鞘をつくっていたところ

11 蠟燭町

蠟燭製造を家業とするものが居住していた職人町。「あかしまち」ともいわれた

12 銀町

金銀細工を家業とするものが居住していた職人町

13 塗師町

漆塗りを家業とするものが居住していた職人町

14 桶町

桶細工を家業とするものが居住した職人町。桶屋町といったときもある

15 横町

十日町が東西に長かった頃に、その横にあったところ

16 檜物町

指物や曲物細工を家業とするものが居住していた職人町

17 元三日町

元の三日町があったところ

18 旅籠町字雁島

馬見ヶ崎川改修以前に本流になっていたところ。茅や葦が茂り雁やなべ鶴が飛んできたところ

19 旅籠町字一ト

周一ト齊という馬などを診る医者が住んでいたところ

20 百姓町

凶作に備えて田を耕作する百姓が住んでいたところ

21 鍛冶町

鉄・鎌や鋸などの製造を家業とするものが居住していたところ

22 四日町

四の日に市が立ったところ

23 伊賀町

諜報、火防等の任に当たる13人の伊賀衆が居住していたところ

24 横宿

羽州街道の横にあるところ

25 歩町

徒歩衆が居住していたところで、古くは徒歩町（かちまち）といった

26 小橋町

鳥居氏による馬見ヶ崎川改修以前は、その川筋に当たり、小橋があったところ

27 香澄町字庚申堂

小橋町松岩寺の裏手に、青面金剛をまつる庚申堂が建てられたところ

28 香澄町字小鯨

三の丸城郭の工事のとき、起点と終点の接合点になったところ

29 香澄町字八幡石

八幡町の本地仏であった弥陀の皇子を刻んだ文和4年（1355年）の石碑があるところ。八幡神社の祭典のときに神輿を安置した石があったともいう

30 旅籠町字鶴嶋

馬見ヶ崎川改修以前に本流になっていたところ。茅や葦が茂り雁やなべ鶴が飛んできたところ

31 香澄町字桜小路

藩の重臣の屋敷があり、桜の並木があったところ

32 香澄町字木の実小路

「きのみくら」に通じる小路があったところ。「きのみくら」は、漆の木の実を入れる藩の蔵とも、熊野権現を祀る紀の御屋（みくら）ともいわれている

33 香澄町字横町南

横町のほぼ南（南西部）に当たっていたところ

34 香澄町字大宝寺

1622（元和8）年山形城主鳥居忠政によって建てられた大宝寺があったところ。この寺は現在、七日町の旧片町にある

35 二日町

二の日に市が立ち、出羽三山の参詣者などに土産物や土産物や店があったところ

36 法華町

日蓮宗浄光寺（当時は法華寺）の門前町

37 六槻町

六本の槻の大樹があって、古来「六槻の里」と呼ばれていた六槻八幡神社の門前町

38 香澄町字吹張

四方の城郭の中でとくに出っ張った形をしていたところ

39 香澄町字南追手前

二ノ丸に入る南追手門（のちに南大手門といわれた）の前に当たっていたところ

40 皆川町

山形城主鳥居氏による馬見ヶ崎川改修以前は、幾条にも流れる川に沿っていたところ。龍門寺の門前町でもあった

41 番匠町

大工が住んでいたところ

42 香澄町字元厩

御厩（おんうまや）があったところ

43 香澄町字天狗橋

築城のときの湧水を流すために掘った排水溝の橋があったところで、かけられた橋は高かった

44 香澄町字袋留

城を防御するために曲げた道路や袋小路が造られたところ

45 香澄町字霊石

文禄5年（1596年）銘の古い石碑や「よなき石」とよばれる石碑があるところ

46 香澄町字六十里越

出羽三山の参詣者などが通る六十里越街道の起点となったところ

47 田町

正徳寺から南館までの田を埋め立てて屋敷にしたところ



↑丸十大屋(天保15年)と看板→



↑男山酒造(明治27年頃)と杉玉↓



↑老舗料亭で女将から話を伺う



↑旧長谷川家(現紅の蔵)(明治35年)



↑教育資料館の内部



↑近江屋とのむらや寝装店(明治27年・明治19年頃)



↑旧山形県師範学校(現県立博物館教育資料館)(明治34年)

価値ある歴史的建造物

藩政期には城下町と商人町、明治期以降に県都として発達してきた山形の街には、江戸・明治・大正そして昭和期の価値ある歴史的建造物が次のように現在もたくさん残っています。時代がまち中に入り交じっているのが特徴で、それらの建物の前には記念碑が設置されています。

- ◇ 江戸期…専称寺、宝光院、国分寺薬師堂、旧宝幢寺、六榎八幡宮、丸十大屋など
 - ◇ 明治期…旧済生館本館（現山形市郷土館）、旧山形県師範学校本館（現県立博物館教育資料館）、旧山形県師範学校講堂、のむらや寝装、男山酒造、旧マルタニ（現紅の蔵）、山形聖ペテロ教会礼拝堂、蔵オビハチなど
 - ◇ 大正期…旧県庁及び県会議事堂（現山形県郷土館・文翔館）、六日町教会、丸八新関本店、料亭千歳館、旧西村写真店、七日町二郵便局など
 - ◇ 昭和初期…旧市島銃砲火薬店、第一小学校旧校舎（現山形まなび館）、明善寺、佐藤屋など
- まち中にいろんな時代の建物が混在している理由として、次の4点が考えられます。
- (1) 明治初期の戊辰戦争で、主たる戦場にならず焼き打ちされなかったこと



↑旧県庁舎(現文翔館)(大正5年)田原新之助設計



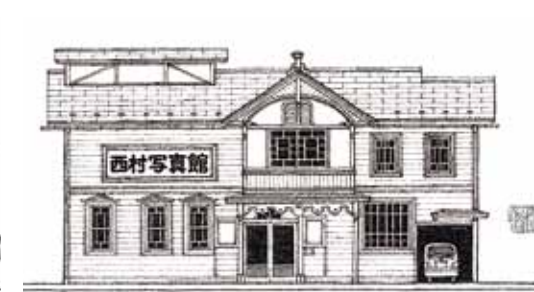
↑丸八新関本店(大正5年)



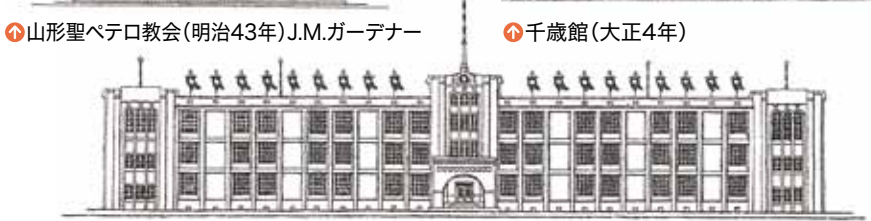
↑山形聖ペテロ教会(明治43年)J.M.ガーデナー



↑千歳館(大正4年)



↑旧西村写真館(大正10年)小林太吉



↑第一小学校旧校舎(昭和2年)秦・伊藤設計

※ペン画4点は結城泰作氏作品

- (2) 明治期の2回の山形大火を教訓に、蔵など防火を意識した建物を市民の力で建てたこと
- (3) 昭和期の戦争で空襲を受けなかったことや、多くの老舗が昔ながらの店と家を護っていること
- (4) 長年大きな地震や水害等の自然災害を受けなかったこと

後世に伝える

伝統的な建築様式と優れた建築技術で建てられた建物は、風雪に耐えて歴史を物語っています。旧済生館本館や旧県庁舎、第一小学旧校舎などが、市民の力で修復保存されていることは山形の宝です。

しかし、時代と共に建物の維持管理が大変になり、残念ながら壊されてしまう事例もあります。古き優れた建造物を、歴史的文化遗产として永く後世に伝えていくことは、私たちの重要な役割です。文化財保護の意識を、更に高めていきたいものです。

ミニ知識 28

大正ロマンの薫り — 文翔館はまもなく100歳 —

山形県郷土館（愛称文翔館）は、イギリス・ルネサンス様式を基調とした3階建ての旧県庁舎及び県会議事堂です。壁は耐火構造レンガで外廻りは花崗岩、1916（大正5）年に建築され、まもなく100歳です。1984（昭和59）年に、国の重要文化財に指定され、保存修復工事が終わった1995（平成7）年から公開され、大正ロマンの薫りを今に伝えています。

庁舎の歴史は、三島県令が建てた県庁舎が1911（明治44）年の市北大火で焼失したため、同じ地に新庁舎が建てられ、現在の松波の県庁舎が新築される1975（昭和50）年まで使われてきました。

その後保存修復工事 — 傷んでいる部分を建てられた時の材料と工法で繕って元の姿に戻し、改造や撤去された所を現在の材料を用いる修復 — は、10年の歳月をかけました。

正庁と知事室などは、天井は花飾りの漆喰、床板は寄せ木貼、大理石の飾柱など豪華です。また国内で札幌時計台に次いで古い銅板飾りの時計塔は、現在も5日に1回手動で分銅を巻き上げることで時を刻んでいます。

霞城公園概念マップ



霞城のいわれ

霞城公園は、市街地中央にあり、400年余りの時を経た「山形城の二の丸跡」の公園です。「霞城」とは、山形城が別名「霞ヶ城」「霞城」とも呼ばれていたからです。それは1600（慶長5）年9月の長谷堂合戦のおり、敵陣の山々から見る城郭は長期間霧がかかっていたからと言われています。

山形城は、1871（明治4）年に廃城、その後、櫓や御殿は壊され、1897（明治30）年には陸軍歩兵三十二連隊の兵営敷地となり、本丸のお堀は石垣や塀などで埋め立てられました。

スポーツ・都市公園に

終戦により、兵舎は新制第二・第三中学校の校舎になり、その後は市野球場やバレーボール・テニスコート・ソフトボール場などの施設が設置されました。昭和40年代には野球場が整備拡張され、新たに弓道場・県立体育館・武道館・温水プールなどが建設されて、スポーツ大会や愛好者で賑わうスポーツ公園に生まれ変わりました。1986（昭和61）年に二の丸全体が国の史跡に指定されたため、スポーツ施設は順次落合のスポーツセンターに移転し、現在は、都市公園として多くの市民や観光客から親しまれています。そこには、城跡二の丸にかかわる東大手門や西門・南門、山形の歴史や人物を語る多くの記念碑、義光騎馬像や旧済生館本館（市郷土館）、県立博物館・体育館、野球場等の施設があります。

① 二の丸東大手門
櫓門・多門櫓・高麗門・土塀（平成3年に復元）

② 最上義光騎馬像
富神山に向かって進撃する勇姿。西村忠氏の山形鑄物（昭和52年建立）

③ 最上義光顕彰詩碑
義光の歴史と功績を讀める（昭和52年建立）

④ 歩兵第三十二連隊碑
明治22年～昭和20年まで駐屯（昭和43年建立）

⑤ ス波兼頼レリーフ
山形城初代城主（昭和52年建立）

⑦ 木村逸堂寿蔵碑
明治7年の県公立病院創立の医員（明治18年建立）

⑧ ローレツ像
明治13年から2年間、済生館で西洋医学を指導（昭和45年建立）

⑨ キャラボク（イチイ）
義光の時代に植樹されたと言われる

⑩ 首洗い石鉢
義光が谷地城主白鳥十郎長久を斬首し、首をのせたと言われる

⑬ 本丸一文字門石垣・大手橋
石垣は平成15年、大手橋は平成17年に復元

⑥ 山形市郷土館（旧済生館本館）と内部
国指定重要文化財 昭和44年に七日町から移築

⑪ 佐藤総右詩碑
県芸文会議常任理事、詩人（昭和59年建立）

⑫ 山形城墟碑
江戸時代後期の山形城主秋元家の旧跡碑文大正10年建立

⑭ 南門 二の丸南大手門跡

⑮ 西門 二の丸西不明門跡

城の魅り

1991（平成3）年には、「山形城跡二の丸東大手門」が櫓門・多間櫓・土塀とともに魅りました。

また、1996（平成8）年から、本丸跡の発掘調査が進められ、金箔の瓦（P23参照）なども出土し、新たな発見が多いようです。本丸一文字門石垣と大手橋、高麗門、土塀が復元され、全容の解明と整備が期待されています。

春には、二の丸の土手には日露戦争凱旋を記念して植樹したソメイヨシノが咲き、1500本の桜がライトアップされ茶会等が開かれます。梅やエゾエノキ、サイカチ等64種の植物等があることから、四季折々の景色を楽しむことができます。園内を説明・案内してくれる「霞城まちなみ案内人」もおります。園内を探検して楽しみましょう。

⑬ 霞城の桜
兼頼が築城の時に植えたと言われるエドヒガンの6本

⑭ 日露戦桜碑
三十二連隊が日露戦争に出立し、霞城への凱旋記念（大正12年建立）

⑮ 北門 二の丸北不明門跡

⑯ 結城よしを歌碑
結城芳夫の童謡「ないしょ話」（昭和41年建立）

⑰ 金澤忠雄謹書碑
元山形市長金澤氏が在任中に建立

⑱ 歩兵第三十二連隊跡碑
元県知事安孫子藤吉の書（昭和39年建立）

⑲ 山形城址碑
東大手門復元の時現在地へ移設（昭和2年建立）

⑳ 光明寺跡
兼頼の菩薩寺跡、七日町に移設（昭和52年建立）